

宇部高専出身の廣理・京大准教授

大臣表彰若手科学者賞に

最高強度のテラヘルツ光源を開発

宇部高専出身の廣理英基・京都大物質・細胞統合システム拠点准教授（38）が、40歳未満の研究者を対象にした科学技術分野の文部科学大臣表彰、若手科学者賞に輝いた。20日に東京都内の官省で表彰を受け、とても光栄。今後も精進を重ね、学術研究への貢献だけでなく、社会に役立つ技術や発見を残したいと抱負を語った。

「超強度テラヘルツ光源の開発と非線形分光に関する研究」の業績が評価された。光と電波の中間領域にある電磁波、テラヘルツ周波数帯の光源の高度化は、薬物や危険物の高速検査、画像

し、半導体デバイスや太陽電池の原理で重要な役割を果たすキャリア増幅過程についても貴重な知見をもたらした。テラヘルツ非線形分光研究という新分野を切り開いた。

廣理准教授は、フュムト秒レーザーパルス光の光整流過程を使った手法で、世界最高強度のテラヘルツパルス光源の開発に成功。この光源を利用

け研究員も兼任している。これまでに大阪大近藤賞、日本物理学会若手奨励賞、ゴッドフリード・ワグネル賞なども受賞した。

後進の中・高校生や大学生には「明るく幸せな人生になるよう、日々の学業や活動から将来の糧となる知識、経験をしっかりと積んでほしい」と期待。高専時代の野田実、野村基之両先生をはじめ、これまで見守ってくれた恩師や家族に感謝している。（松原）

科学分野の文部科学省



賞状を手にする廣理准教授
（文部科学省で、提供）